

## 安心・安全のプレゼント

福島市立松陵中学校二年 丹治ひより

小学校に入学した時から一人で下校する事が多く、怖がりの私は、変な人がいたり、熊が出るのではないかと、いつもビクビクしながら歩いて家まで帰って来ていました。

でも、私の通学路には家が並んでいて、お年寄りの方々が住んでいました。下校時には庭の手入れや、畑仕事をしている手を止めて「おかえり。」「こんにちは。」と、私を見掛けると声をかけてくれるお爺さんやお婆さんがいました。私も声を掛けられる度に挨拶をして言葉をかわしていました。近所の人から声をかけてもらうことで、皆に見守られているような安心感をもらい、家まで怖い思いをしないで帰ることができました。

近所の人に「大きくなったね。」と誉めてもらったり、夏には、「暑いね。ちょっと待っててね。」と言われてアイスをもらえたりすると、いつもとってもうれしくて、声を掛けてくれるお爺さんやお婆さんとお話をするのが大好きでした。

しかし最近はお爺さん一人暮らしの家で、お爺さんが亡くなったりして、お婆さんが一人で暮らしている家が何軒かあります。

「あそこの家のお爺ちゃん亡くなったよ。」と聞くたびに、もうお話できないんだなと私はとても寂しく思いました。この前の学校からの帰り道「何年生になったんだい？」といつも話し掛けてくれるお婆さんと私の事や私の姉、両親の事について色々聞かれ、長い時間立ち話をしました。

その事について家に帰り母に話すと母が「お爺さんが亡くなって一人であるから寂しかったんじゃないの。」と言いました。私は母と同じ事を考えていました。私と話をしている時お婆さんは、話し相手ができるととてもうれしそうで、この時一人で暮らすのは寂しいだろうなと思いました。

今までずっと小さい頃から声を掛けてもらっていたけど、これからは自分から声を掛けてお話をしようとも思いました。少しでも、一人暮らしで寂しい思いや不安な気持ちをやわらげるお手伝いができるといいなと思います。

私が大人になった時には、私がお爺さんやお婆さんに見守ってもらいながら、安心して学校から歩いて家に帰って来る事が出来た様に、近所の子供達に優しく声を掛けてあげられる様な人になりたいと思います。そして安心や安全を子供達にプレゼントしてあげられる様に見守ってあげたいと思います。